



## 薫るように、香りのように

校長 橋本 滋

各地の紅葉のたよりとともに、11月を迎えました。今月は「市内音楽会」「学校公開日・大東っ子まつり」「校内音楽会（公開）」等の行事が予定されていますが、それらの行事を生かした充実した教育活動を推進してまいります。

過日、5年生の自然の教室（たかつえ：2泊3日）、6年生の修学旅行（日光：1泊2日）がありました。5年生は「教室」という言葉が付いているだけに、宿泊を通じた集団生活での学びと自然の中でしか学べない体験をとおした学びをしてきました。6年生は、仲間と共に活動することでより親交を深め、自主性や集団としてのまとまりを見ることができました。いずれの学年も大東小の児童として素晴らしい姿を見せてくれました。ぜひこの体験をこれからの学校生活に生かして行ってほしいと思います。

話は変わりますが、わたしはこの時季になると帰宅する楽しみが一つ増えます。それは玄関の横に植えてあるトランペット（正式名称は、エンジェル・トランペット）から東風によって淡く甘い香りを嗅ぐことができるからです。その花は淡い黄色でトランペットのような大きな花が下向きに垂れ下がって咲き、朝には萎れてしまっています。花の咲いている時期も短く、去年は季節外れの雪のために僅かな期間しかその香りを嗅ぐことができませんでした。毎年その香りに出会いたくて約30年間、毎年冬越しをして咲かせています。私のように好きなにおいやかおりは誰にでもあると思います。そしてそのにおいやかおりと共に景色や声、その時の感情も同時に思い出されるのではないのでしょうか。

このような童謡（唱歌）があります。「おかあさん」という歌です。

- 1 おかあさん なあに おかあさんて いいにおい  
せんたくしていたにおいでしょ しゃぼんのあわの においでしょ
- 2 おかあさん なあに おかあさんて いいにおい  
おりょうりしていた においでしょ たまごやきの においでしょ

この歌詞の「おかあさんのにおいでしょ」という表現から何気ない親子の会話の中に母と子の柔らかな笑顔や安らぎ、そして幸せな暮らしが目の前に浮かんできます。このように、子どもたちの幸せな気分や幸せだと思ふ心は、日常のほんの些細なこと、何気ない言葉のやり取り、眼差しの中にこそあるのだなと感じさせてくれます。

このような意味で「薫り」という漢字を使う場合があります。この文字には臭覚だけで感じる匂いに加え、雰囲気など、抽象的な匂いを表現する場合にも使われます。「初夏の薫り」や「薫風」などです。また、この文字には「穏やかな様子」との意味も含まれています。

よい陶器をつくるために香を焚いて、その煙（香）を染み込ませて作ることから「薫陶」という言葉が、またそれが「人徳や品格のある人物から影響を受け、人格が磨きあげられること」「感化される」との意味で「薫陶を受ける（・・・から薫陶を受けた）」と使われています。

人が成長する過程において香りのように、知らず知らずのうちに影響を受け、「感化」されていきます。童謡「おかあさん」の歌詞のように子どもたちの心が穏やかで安心して生活できることが一番であると思います。学校もそのように願い、努めていきますので、ご家庭におきましてもご支援、ご協力くださいますようお願いいたします。



